

令和4年9月例会報告

- 日時 令和4年9月28日(水)
- テーマ 行徳の常夜灯・市川野鳥の楽園を巡る
- 集合 京成市川真間駅
- 集合時間 9時00分
- 参加者 36名
- 解散 15時(東西線行徳駅)
- 距離 15キロ
- 案内役 リーダー:伊香賀 泰之、サブリーダー:小川 保子、有松 平
- コース ①市川真間駅⇒②大洲防災公園⇒③行徳橋⇒④徳願寺⇒⑤行徳神輿ミュージアム⇒⑥常夜灯公園⇒⑦東西線行徳駅⇒⑧行徳駅前公園(昼食)⇒⑨行徳野鳥観察舎⇒⑩福栄スポーツ広場⇒⑪東場公園⇒⑫香取公園⇒⑬東西線行徳駅(解散)

幕府直轄塩田地帯として栄えた行徳

9月28日、秋晴れの爽やかな天候のもと、36名の皆さんが参加し、9月例会が開催されました。今月のテーマは、「行徳常夜灯と市川野鳥の楽園を巡る」です。江戸川沿いを歩き、その後、行徳地区を巡るコースです。

行徳は、江戸時代、幕府直轄の塩田地帯として漁業、農業が盛んな土地でしたが、成田街道の入口として、人や物の交流が盛んとなり、宿場まち・港まちとしても栄えた地域でした。平成26年以来約8年ぶりに行徳を巡る例会ですが、ほとんどのの方が初めての体験だと思えます。

今回の案内役は伊香賀(筆者)、サブリーダーは、有松さんと小川さんです。

歩くには最適の季節を迎え、たくさんの皆さんが参加してくれましたので楽しい1日になりそうです。さあ、元気よく歩きましょう！！

徳川家康開基の徳願寺

大洲防災公園で朝礼、準備体操を済ませ、しばらくは江戸川沿いの遊歩道を歩きます。爽やかな秋風がとても心地よく感じます。行徳橋を渡り、行徳地区に入りますが、この橋、令和2年に架け替え工事が完了し、道幅も広くなり、とても歩きやすい橋に変貌していました。

しばらく歩くと、徳願寺に到着です。ここで1回目の休憩となります。この寺は、1610年(慶長15年)徳川家康の開基により諸堂が建てられ徳願寺と号するようになったと伝えられており、徳願寺の「徳」は、徳川家康の「徳」からきているのですね。

ご本尊の阿弥陀如来像は、現在大河ドラマで脚光を浴びている源頼朝の妻・北条政子が運慶に命じて彫刻させたものと伝えられています。



行徳橋を渡る



徳川家康開基の徳願寺

行徳のお神輿と常夜灯公園

行徳は、全国にも類を見ない神社仏閣のまちとして有名で、宮大工が多く住み、今もなお、その伝統的芸術を世に送りだしています。その匠と技を活かして、神輿づくりが盛んになり、神輿発祥の地として有名になりました。実に全国の4割が行徳の神輿といわれており、今回はその神輿が展示されている「行徳神輿ミュージアム」を見学しました。華やかな神輿の数々、そして普段見ることができない神輿の内部や職人が使用する道具など、とても興味深い展示品 を堪能いたしました。

次に訪れた常夜灯公園は、江戸時代、日本橋から下ってきた「行徳船」が到着する船着場として栄えていた所です。幕府の基礎が固まり平和な世が続くと、江戸の庶民の間では成田山詣りの人気が高まり、人々は日本橋から行徳まで船でやってきました。そこから成田街道を歩く コースが多く利用され、行徳は川と陸の交通の要として、また宿場町としてもにぎわいました。



行徳神輿ミュージアム前にて



常夜灯公園にて休憩

新浜鴨場と野鳥の楽園

午後は行徳駅前公園で昼食を済ませ、「行徳ふれあい周回路」を1周します。このコースは、新浜鴨場、野鳥の楽園、野鳥観察舎などがあり、公園も多く、とても歩きやすいコースです。

午後一番に訪れた新浜鴨場は、日本に2か所しかない宮内庁の鴨場で、11月中旬から越冬のため、約1万羽の野鴨が飛来してきます。ここでは野生の鴨を無傷のまま捕獲する独特の技法が維持保存されており、その技法は、皇室が継承して現在に至っています。

野鳥の楽園は、野鳥の生息の場と緑地保全を目的に人工的に造成された、約56ヘクタールの鳥獣保護区です。その前に佇む野鳥観察舎は、この緑地を一望できる建物で、2階のガラス張りの展望スペースからは野鳥をはじめ、季節の花々や昆虫、キノコ、カニやトビハゼなどの様々な生き物を観察できます。望遠鏡も完備しており、館内では自然や環境を学ぶイベントも定期的に開催されており、とても素晴らしい取り組みだと感じました。以前にもこの欄で書いたことがありますが、さすが市川市ですね。



野鳥観察舎「あいねすと」前にて

行徳は都心へのアクセスもよく、駅周辺はベッドタウンとして賑わいを見せていますが、少し歩くと、緑豊かな自然が多く、また幕府の天領(塩田地帯)であったことから江戸時代の賑わいを感じさせる神社仏閣、街並みも多く、とても魅力あふれる地域でした。

今回参加された皆さんも、同じ思いを抱かれたならば、幸いです。

来月は、「矢切の渡しと柴又帝釈天」のコースです。

それではまた、元気にお会いしましょう。 (報告 伊香賀)